

「江南市環境基本計画（案）」に関するパブリックコメントの結果

- ・意見の募集期間 平成24年1月1日（日）から1月31日（火）
- ・意見を提出された方 1名
- ・意見の件数 52件

パブリックコメントに対する市の考え方について

No.	項目	意見の概要	市の考え方
1	全体、計画の見直しの視点について	環境基本計画は、各種活動において都市計画、農政計画、エネルギー政策などの上であり人口変動など市民活動に関係した計画とすべきである。それらに波及し、それが分かる記載が望まれる。絵に描いたもち、希望的表現が多い。	本計画は、江南市環境基本条例に基づき、環境行政を総合的かつ計画的に推進するうえで必要な計画であり、市の各計画や施策と密接な連携を取りつつ、市の施策や市民、事業者に求められる行動を環境面から横断的にとらえた総合的な計画として、本市の環境保全に関する取り組みの基本的な方向を示すものです。
2	同上	江南市はちょうど10万人規模の小都市で、少ない予算でも重点項目に注力することで文字通り他に先駆けた生活環境創造都市の実現ができ、かつ市民が胸を張れる事実をもたらすのではないかと。小さい市の環境活動をあきらめないで欲しい。	ごみ減量「57運動」を始め、市民の皆さんと協力して環境に関する取り組みを行い、今後も地域に根差した活動を進めます。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
3	同上	国や県に頼る施策だけではなく、地域に根差した環境資源の利用と対策で独自性を一つ出すことが求められる。本計画案にはそれが明確ではない。	本計画では、市の最も重要な資源は市民であると考えています。市民の皆さんのマナーや一人ひとりの努力など、行政だけでは直接変えられないものに対する取り組みに注力することとしています。現在、活動している個人・団体という資源を最大限活用し、今後の環境保全へ生かします。
4	同上	本計画は、東日本大震災、原発事故に触れているが、それを受けた具体的な提案がされておらず、これからの10年へ向けた計画としては不十分な点がある。エネルギー利用、原発への対応姿勢を考える計画は避けるわけにはいかない項目ではないか。	原子力に頼らない発電と地球温暖化対策のバランスを考えると、地域レベルでは省エネ・新エネ対策の強化が重要と考えます。また市では自然エネルギーの有効活用のため、住宅用太陽光発電システム設置費補助を拡大することを目標としています。
5	全体、計画の見直しの視点について	全体像としたリーダーシップを発揮する江南市の10年後の環境計画のイメージのコンセプト化が必要。 参考事例：低炭素都市なごや戦略実行計画のような概要書作成	本計画の概要版を作成します。
6	同上	市民に意見を聞くという形であるなら資料はもっと少なく簡略化し重複を避ける記載を求める。	計画書の内容の全てに対するご意見を求めるため、省略せず、全てを公表することにしました。
7	同上	異常気象・気温上昇の現状に加え、実害を提示後計画への記載が必要。 過去10年における気温上昇や異常気象（昨年は豪雨事例あり）を実感している市民は多いはずである。温暖化はすでに生活の身近なところで問題を起こしていることを現状として記載し、その上で市民に参加を呼び掛ける計画書が好ましいと思う。	気温上昇については、都市部ではヒートアイランドの影響があり、また異常気象はエルニーニョ等の影響も考えられるため、個別の事象をすぐに温暖化に結びつけるのは困難であると考えます。また地球温暖化については、市の取り組みとして江南市地球温暖化対策実行計画の中でより詳しく記述しています。市民の皆さんには広報、ホームページで啓発します。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
8	江南市における環境問題への評価、改訂の必要性	環境問題項目別の現状をグラフ化し、日本の環境問題は危機状態であるということ伝えるべき。また計画の必要性、明確化がされていない、はっきりしない。	計画書のスペースを利用し、環境問題についてのグラフや表を掲載します。また本市の環境の現況については、詳細な資料を資料編に掲載します。市の環境問題の現状については毎年、江南市環境審議会において議論をします。計画の必要性については、市民意識調査を実施し、多様化する市民のニーズ、対応が急がれる地球温暖化対策、引き続き対策が必要なごみ問題など、より良い環境づくりには市民一人ひとりの行動が大切であることから、市民一人ひとりの力の大きさに注目し、社会情勢の変化や新たな環境問題に対応するため必要であることを江南市における環境問題への評価とともに明らかにしています。
9	江南市における環境問題への評価、改訂の必要性	前計画でごみ問題での逼迫感を告知し施策でリーダーシップを取ったのと同様以上の取り組みが地球温暖化対策、循環型社会形成にも示してほしい。	地球温暖化対策やごみ問題から派生する循環型社会形成についても、リーダーシップをとり、計画のそれぞれの項目のところでしっかり取り組むことを示しています。
10	同上	江南市で放射性物質の汚染対応が必要かは疑問である。それより電力依存性、原発依存への考えを提示すべきではないか。一人ひとりの行動に期待するためにどうするか具体的な計画がこの計画案であるはずではないか。	原子力依存の問題は、電力供給構造の問題も含めたエネルギー政策が政府で見直されています。江南市でできることとしては、原発事故を受け、市民の安全を守ることを優先し、放射性物質による汚染状況の把握が必要と考えています。
11	望ましい環境像、環境目標について	望ましい環境像はイメージが伝わらない。(文字以外の表示を入れる。)問題は目標の形で示し、市民意識調査結果の市の環境が「以前と変わらない」、は悪くなっているもしくは関心が低いと同義とすべきではないか。	ベッドタウンである本市の特性を踏まえ、快適性と持続可能性を両立させたまちを目指しています。 「以前と変わらない」が最も多かった点については、関心が低いため成果が伝わらなかったことも含めて「前計画の成果が現れにくかった」と評価しています。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
12	望ましい環境像、環境目標について	<p>「本市では大きな環境問題は発生していない」は調査不足ではないか。</p> <p>私の近隣事例でいえば、厚生病院建設、その北東部の増設新興住宅地区、雑木林の減少、作付けの無い田、畑等の環境変化は生物多様性に対し問題は無いのか。酪農（豚、鶏）農家があるが糞尿による悪臭は広域に渡る。古くからの住民には周知の事実だが新しく移り住む人々には苦痛となる可能性が高い。また、周辺住民は窓を締め切った生活を強いられ、結果エアコン稼働率は上昇する。これは環境問題ではないのだろうか。クレームが持ち込まれる、または公害認定の様なものばかりが環境問題ではないはずである。先出の酪農農家は他の4件の牛酪農者も含め地域の大事な資産である。地産地消、子供たちへの食育への利用、バイオマス発電等の取り組みが期待され「みんなの郷土」として市としてバックアップも期待している。</p>	<p>「大きな環境問題」は、訴訟や犯罪に結びつくような大きな問題を想定しています。</p>
13	地域の環境づくりにみんなで取り組むまちについて	<p>平成 28 年度、平成 33 年度で目標数値が同じものがあるのはなぜか。</p>	<p>目標値が同じものは、早期の達成を目指しているものです。また5年後の計画の見直しの際に平成 33 年度の目標値を再検討します。</p>

No.	項目	意見の概要	市の考え方
14	地域の環境づくりにみんなで取り組むまちについて	環境フェスタの来場者数は絶対数ではなく人口当たりの割合で示すべきである。合わせて費用対効果も入れるべきである。目標が低すぎないか判断できる指標を求める。	環境フェスタの来場者は市民の環境に対する関心のバロメーターとして指標に取り上げています。来場者数の増加がすぐさま効果として現れるとは考えていませんが、毎年少しずつでも増加するよう環境フェスタの内容を検討します。
15	同上	指標に対応する形で取り組みは記載されるべきである。この書き方ではどう対応しているのかわかりにくい。	指標が設定しにくいものや、複数の取り組みの結果となる取り組みもあり、一対一で対応させることは困難なため、代表的なものを指標として掲げています。
16	同上	取り組みに対して具体的な計画、効果数値化による活動の成果を 33 年で明確にする必要がある。 例えば、市民はどうやって地球環境に関するシンポジウムやイベントに参加するのか。これに対応する市の取り組みとして、シンポジウムを年 3 回実施すると記載するなど。	取り組みの具体的な方策については、毎年度、実行計画の中で定めています。また市が開催するシンポジウム、イベント、講演会などについては広報やホームページ等を通じて参加を呼びかけてまいります。
17	同上	1、2、3、とわけず重点度を示し加重型計画としてはどうか。順位をつける。取り組みが散漫になって成果縮小化を防ぐ。まずできることからの計画書とする。	環境行政の広い分野に対し、第 3 部第 2 章で市民、事業者、市が取り組む事項について全体的な方針を定めました。次に第 4 部第 1 章第 3 節において、それらの中から重点的取り組みとして、優先的に取り組む事項を挙げました。まず核となる人材を探し、そのつながりを活かして取り組みを広げていくことを考えています。
18	同上	啓発、努力という表現の羅列ばかりは計画書には向かないのではないかと。	現環境基本計画の指標数は 25 であるのに対し、改訂後の計画は 48 の指標を掲げ、進行管理をしっかりとまいります。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
19	地域の環境づくりにみんなで取り組むまちについて	環境保全活動改め、市民環境保全活動と市環境保全活動となる方が良い。	環境保全活動は、市民、事業者、市で協働して進めるため、分けずに記述しています。
20	さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまちについて	放射能への安全に対する指標が無いのはなぜか。何もしないなら記載の必要はない。	放射能に対する国の基準値は暫定であるため、指標としては記載をしていません。市では国の動向に注視し、放射能に対する情報収集に努めます。指標化については5年後に行う計画の見直しの際に検討します。
21	同上	大気汚染が環境基準を達成していない地区など、現状を地図で示すべきだ。	市の環境の現状については資料編で示します。なお、大気汚染の調査地点は古知野町花霞の1地点であり、騒音は全測定地点で環境基準を満足していたため、地区別表示ができませんが、河川の水質調査地点と環境基準達成状況については本編に図を追加します。
22	同上	浄化槽、下水道普及率の合算は全国的に見て悪い数値では無かったと思われるが、目標値と指標比較値を併記してほしい。	下水道普及率は、愛知県の72%に比べるとかなり低い状況です。それを補完するため合併浄化槽の推進を図っています。平成21年度の全国の全浄化槽に占める合併浄化槽の設置基数の割合は49%であり、江南市の32.2%は低い数値となっています。
23	同上	水辺と緑の整備について、課題に森林が少ないことを上げているにも関わらず、緑地割合の目標値は低すぎるのではないか。また平成28年度で目標が達成できるということなら平成33年度には増加を記載すべきではないか。	本市は名古屋圏の住宅都市として発展しており、名古屋のアクセスの良さにより今後も都市化の進行が予想されます。このため、都市化とともに減少する緑の量を守るとともに、市街地にまとまった緑が少ない状況に対応するような公園や広場の整備や、河川沿いの緑や街路樹の整備などを進めることにより、平成28年度の緑の量の維持を目標としています。
24	同上	緑地の現況量の図は明確であり、非常に分かりやすい。平成33年度の達成目標図も付けてほしい。	他の項目とのバランスもあり、緑地の現況量についてのみ詳しく内訳を掲載することはしていません。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
25	さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまちについて	同上課題に農地保全の記載があるにもかかわらず、指標目標が無いのはなぜか。別の計画に記載があるなら連携事項を明記してほしい。また市担当部署の責任を明確にしてほしい。	農業を取り巻く環境は非常に厳しいため、農業政策において、農地の目標面積は設定していません。そのかわり、耕作放棄地の面積を減らすことや、市民菜園を増やすことを目標としています。
26	同上	市の取り組みはすべて数値を盛り込んだ記載にすべきである。緑の基本計画からの転記があっているのではないか。 (他記載提案)・花いっぱい運動を毎年5～6月に全公共施設、学校で実施する。 ・屋上緑化、壁面緑化、空地緑化、駐車場緑化、生垣設置の促進に努めます→条例化助成計画を実施する。	取り組みの中には定性的なものもあり、すべてが数値で評価できるものではありません。そのため定量的に評価できる取り組みのいくつかを指標として掲げています。なお、目標値は緑の基本計画からも取り上げています。
27	同上	「緑化に固執しない」計画も必要ではないか。道路、都市内での緑化だけに頼らない計画があってもよいのではないか、屋上、駐車場緑化、芝、樹木の植林と維持だけで賄えるのか、過渡期には気化熱利用技術の使用の検討があってもよいのではないか。関西、関東では環境教育と併せ公立幼・保育園、小中学校全校にミスト空調機器の設置事例がある。	気化熱に着目すると、愛・地球博で設置されたようなドライミストの導入も考えられますが、設置費用等を考慮し、多面的な機能をもつ緑地に注目した取り組みとなっています。夏季の温度対策には、打ち水など家庭でできる簡易な方法もあるので、広報でPRしています。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
28	さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまちについて	生物多様性の保全 調査実施計画は無いのか。指標、目標が現状維持というのとはどういうことか。	生物多様性の保全のための調査計画は現在のところ予定していません。しかし経年的に行なっているバードウォッチング教室や、水生生物調査の結果によれば、出現種数が安定しています。出現種数を増加させるためには、江南市にとどまらず大掛かりな環境改変が必要となりますが現実的ではありません。そのため、現在の環境を悪化させないことを目標に、現状維持としています。
29	同上	木曾川水辺は護岸工事、人工公園整備が中心であるように思う。生物多様性の観点からそれで良いのか疑問がある。	水辺については、生物多様性に配慮すると同時に、市民生活の安全を確保する必要があります。そこで防災面から護岸の機能を確保した上で、河畔林を保全します。
30	同上	公立施設のビオトープ導入、導入実績がすでにあるが、これからの 10 年の計画で効果とバランスからみて更に必要なのか。必要であれば件数の記載が出来ると思われる。	学校のビオトープは、各施設の事情もあり、目標値は設定していませんが、継続できるよう努めます。
31	ごみを減量し資源の循環利用に取り組むまちについて	ごみ減量化は推進しており、さらに踏み込んだ計画はできないのか。重点を置いている生ごみ処理機の例では、指標目標は人口当たりの普及率で記載を要望する。	ごみ減量「57運動」により、近年一人一日当たりのごみ量は減少していますが、引き続きごみ減量化は大切な取り組みであると考えています。
32	同上	平成 28 年度と平成 33 年度で（ごみ排出量の）数値が同じということは平成 28 年度に達成するのか。	上位計画の江南市戦略計画においても平成 29 年度の目標値を同様に設定しています。平成 28 年度の本計画の見直しの際に再度検討します。
33	同上	資源の循環利用現状記載の有用金属の回収に対する計画は無いのか。近隣自治体との協力でも計画に記載すべき項目では無いのか。	有用金属の回収のため、携帯電話、PHS の回収を行なっています。計画書では市の取り組みに記載しています。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
34	ごみを減量し資源の循環利用に取り組むまちについて	市の取り組みは宣言のようで計画性が伝わらない。	取り組みの具体的な方策については、毎年度、実行計画の中で定めています。
35	同上	不法投棄低減には雑木林の利用が各地で実施されている。啓発から踏み込んだ計画の記載を期待する。	市の取り組みで、不法投棄をさせないような土地（雑木林、遊休地、空き地など）の管理を指導・啓発することを記載しています。
36	青い地球を次の世代につなぐまちについて	「青い地球を次の世代につなぐまちを目指して」は計画の最初に来る項目であると考え。未来があってここに向かうためにどうするか計画ではないか。	環境目標の順序は、国や県の計画を参考にしつつ、江南市の社会的・自然的環境を考慮した上で、市民意識調査結果を踏まえ、構築したものです。
37	同上	CO ₂ 排出量は人口増減予測、事業活動予測との併記により目標を決めるべきではないか。	CO ₂ 排出量は市民一人あたりで示しており、人口増減よりも生活スタイルの影響が強いと考えられます。目標設定にあたっては、京都議定書における我が国の目標（2012年）が1990年比で6%の削減を必要としているため、市においても同様の考えで目標値を定めています。
38	同上	エネルギー使用指標として電灯需要量は現状維持が目標なのか。推移では増加している。削減が必要ではないのか。	一世帯あたりの人口が多いほど、その世帯における一人あたりの排出量が少なくなります。一世帯あたりの人口が減っていることが、一人あたりの排出量を増やす要因の一つとなっているため、契約口数あたり排出量の現状維持を目標とし、市民全体の排出量を抑制することとしています。
39	同上	カーシェアリングを推進するための具体的な計画は、市の取り組みに無いのか。（自動車利用削減が可能なのか）。	計画書の市の取り組みの中で、カーシェアリングの推進について記述しています。
40	同上	緑のカーテン以外の施策が必要ではないか。	緑のカーテンは市民、事業者に大きな負担なく誰でも簡単に実施できるため、積極的に推進しているものです。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
41	青い地球を次の世代につなぐまちについて	新エネルギー利用、太陽光以外の施策を検討すべきではないか。	新エネルギーには各種ありますが、地理的条件に制限がある風力・小水力発電や、収集・運搬体制の確立が難しいバイオマス利用よりも、技術が確立し比較的普及している太陽光発電の導入を優先しています。
42	同上	地元建築業者によるエコハウスコンペ実施などモデル住宅を建てる普及を啓発する。地元事業者の環境対応化の推進を行い、併せて技術向上、雇用創出を実施してはどうか。	モデル住宅事業については、今後の参考にします。
43	同上	低公害車導入と併せて公用車台数減を指標とすることは出来ないのか。言い換えれば公共交通機関の整備が進める計画と一緒にした目標とする考え方もある。	市役所では現在も車両が不足している状態で、車両がこれ以上減ると市民サービスを低下させるおそれがあるため、現状維持としています。今後も公用自転車などを積極的に活用していきます。
44	同上	省エネ設備、機器普及とはどのように行われるのか。	広報や市ホームページを通じて、その有効性を啓発します。
45	同上	都市計画道路整備における自転車道整備について計画が必要と思われる。	現在のところ自転車専用道の確保は困難な状況にあります。今後の計画については、検討課題とします。
46	同上	自動車保有台数推移は現状が分かる資料が良いが、名鉄江南駅の乗降客数のグラフは本計画との関連性が不明。いこまいCARの利用人数やバス利用者数の推移グラフの方が妥当ではないか。	自動車保有台数が横ばいで、名鉄電車の利用者が減少しているグラフは、公共交通の利用者が自動車利用へ移行している傾向を示すために掲載しています。

No.	項目	意見の概要	市の考え方
47	青い地球を次の世代につなぐまちについて	オゾン層保護対策は前計画の踏襲だけではないか。目標が地球規模の環境保全に努めるのに対し、指標が別項目でも取り上げた不法投棄であるのはおかしいのではないか。	オゾン層対策としては、フロン代替、回収が進んでいるものの、江南市のレベルで見ると不法投棄によるフロンガスの漏洩が無視できません。そのため、不法投棄をオゾン層保護対策の指標に取り上げています。
48	同上	資源環境保全として、江南市の文化資材の保全は計画に載せないのはなぜか。近日でも「のこぎり屋根工場」は先人の知恵を伝えるものとして町環境保全するという新聞記事があった。古知野の昭和の街並み維持保全といった取り組みも市の宝として環境計画に記載があるべきである。	まちなみ・景観保全などは広い意味では環境保全に関するものに含まれますが、今回の計画では扱っていません。江南市都市計画マスタープランに記載をしています。
49	同上	駅前を中心としたマンション建設に象徴される近影と「さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまち」から想像する景色を一致させられますか？	駅前周辺は河川や緑地から離れており、地域による景観の差は多少なりとも生じるものと考えています。市域全体として、生活公害への対策や緑化などを進め、「さわやかな空気と水と緑のあふれる暮らしやすいまち」を目指してまいります。
50	計画の推進に向けて	推進体制に第三評価機関が加わるべきではないか。	学識経験者、各種団体代表者、公募の市民で構成する江南市環境審議会を第三者評価機関として、進捗状況の評価を行います。
51	同上	江南市環境審議会の評価内容が分かりにくい。	審議会の評価は目標値の達成状況、市の取り組みの内容を評価します。その結果は市ホームページで公表しています。
52	同上	重点的取り組みの項目は「57運動」以外新規性、具体性が乏しい。	ごみ減量「57運動」以外にも、市民、事業者の自主的な取り組みを支援するための「エコ人材の発掘・育成」、快適な生活環境づくりのための「生活マナーの向上」を現計画にはない新しい重点的取り組みとし、望ましい環境像「みんなでつくる持続可能で快適な生活環境都市」の実現に向けて取り組みます。